Special Feature
Reframing Japan from the Outside
Part 7

「インタビュー」

ものの愛らしさを「民藝」に見る

深澤直人氏に聞く

民藝運動の精神は、現代の生活のなかのデザインに、どのように受け継がれているのだろうか。世界的に活躍するプロダクトデザイナーであり、日本民藝館館長でもある深澤直人氏に、民藝の魅力と自身のデザイン哲学について語っていただいた。

構成／長井美暁

生活のなかのデザインで大切なこと

世の中にデザインされていないものはひとつもありません。見栄えのするものがデザインされたもの、と解釈する向きもありますが、どんなものも必ず、誰かがデザインしています。ただし、これはデザインされている、と多くの人が認めるものは、それなりの努力が見てとれる。生活に関わるあらゆるもののデザインに同等の努力が注ぎ込まれれば、粗悪品が淘汰され、その結果、私たちの生活全体の水準が向上するでしょう。

ものの使い勝手を良くすることもデザインの大切な使命です。パソコンやスマートフォンなどがアップグレードを繰り返すように、家具や生活用品も少しずつ改良を重ねていく。新しいものを生み出そうとすることばかりがデザインではなく、こうした側面の方が昨今はより求められているように感じます。

私がデザインを学んだ1970年代後半はまだデザインが自己表現の一種、アートの延長のように捉えられていました。しかし、社会に出てからは、いや、そうではないだろう、と反発する気持ちが膨らむ一方でした。そんなときに「民藝」の思想と出会ったのです。作者の意図を前面に打ち出すのではなく、人々の生活に有用なものをつくるというスタンスでデザインに向き合いたいと考えていたところだったので、出会った瞬間にぴったり符合するものを感じ、鮮烈な印象を受けました。淡々とつくられるものの中から生まれる謙虚な美。デザインが目指すべき方向はこれだと開眼しました。アメリカに渡る前、30歳を過ぎた頃のことです。

時代とともにデザインの意味合いも変わってきました。今求められているのは個々のものの確立というより、総合的な生活の雰囲気だと思います。椅子や食器といったものはあくまで生活の雰囲気をなしている分子に過ぎず、それらが渾然一体となったときに、なんかいいね、と感じる雰囲気が求められている。だからデザインに従事する我々は俯瞰（ふかん）した目をもち、全体を統合することをイメージしながら分子をつくらなければなりません。すべての分子はつながっているという考え方で、現代においてはそこにデザインの極みがあると言えます。私はそのような時代の変化からも、「民藝」の思想に通じる美の概念がデザインの送り手側にも受け手側にも浸透してきたことを感じます。

民藝の「愛らしさ」とプロダクトデザイン

民藝運動は日常の道具にひそむ謙虚な美を見いだしたことが評価されていますが、私は柳宗悦の一番の功績は、それらの「愛らしさ」を知らしめたことだと思っています。柳の収集品を見渡すと、どれも実に愛らしい。彼はもちろん自分の琴線に触れたものを収集したわけですが、それらの品々を目にしたとき、わあ、可愛い、と思わず手が伸びたのではないでしょうか。愛らしさには人を引き寄せる力があります。

愛らしさといえば、私はアジア圏の狛犬を集めています。名工の手になる彫刻のようなものではなく、掌にのる大きさまでの素朴なもの。国や地域によって顔がまったく違うのです。日本の狛犬は精巧につくられていますが、たとえば中国の狛犬はほとんど石の塊で、よく見れば顔があるかな、といった程度。でも、すごく愛らしい。自宅の棚にはほかに、北海道の名工に頼んだ木彫りの熊や、インドで手に入れた象の置物なども飾っています。

このようなものの愛らしさも「民藝」から私が教えられたことのひとつ。愛らしさは親しみを生み、親しみはものを大事にする気持ちを育みます。これはものづくりにおいてとても重要なことです。デザインはかっこいいものをつくることだと思われがちですが、かっこいいものには冷たさがあり、それは時に人を拒絶する。だから私も、あまりクールにならないように、どこかに愛着が感じられるデザインをいつも心がけています。美を突き詰めていくと、人が本能的にすり寄っていくような魅力にたどり着くのかもしれません。日本でのこの20年ほどの顕著な変化として、クールなデザインが持て囃されることは少なくなりました。逆に「民藝」はどんどん人気が高まっている。それは人々の美の意識が一段上がったことの表れであるように思います。

Fukasawa Naoto
1956年生まれ。プロダクトデザイナー。多摩美術大学教授。1980年多摩美術大学プロダクトデザイン科卒業。1989年渡米し、IDEO入社（96年より東京支社長）。2003年、NAOTO FUKASAWA DESIGN設立。2012年より日本民藝館館長に就任。著書に『デザインの輪郭』、作品集に『NAOTO FUKASAWA』など。

±0／加湿器

深澤氏がこれまでにデザインを手がけたプロダクトの一部。生活の幅広いシーンで親しまれている。

水滴のような丸く
ふっくらしたデザイン。
無駄なディテールを削ぎ落とし、
やわらかく空間になじむ。

au KDDI/INFOBAR A03

2003年の発売以来、
6代目となるINFOBAR。
携帯電話の技術は進化したが、
変わらぬモノの魅力を保つ。

無印良品／
壁掛式
CDプレーヤー

紐を引くと、風のかわりに
音楽が流れ出る
換気扇のような形の
壁掛式CDプレーヤー。